

第 15 回 松代地震センター談話会発表記録

1. 日 時：昭和 45 年 3 月 30 日
2. 場 所：松代地震センター
3. 発表題目：水の圧入とひずみ地震計による観測
4. 発表者：気象庁 地磁気観測所 相原 奎二

白い大きい紙の最後の 2 枚を見ていただきます。資料がちょっと古くて申し訳ないんですが、長さ 100 m の歪み地震計の変化を描いたものです。上が南北成分、下が東西成分、どちらも非常に緩やかに縮みの傾向を示しています。第 1 回の圧入の時には、ここで見た限りどうということはない、はっきりした影響は言えない。2 回目の圧入が始まってから、ちょっと変な変化をしている。その部分だけを上の方に描いてあります。

これは、観測所の山口さんが整理されたものですが、どうも上の所に「150 リットル毎分」とか「300 リットル毎分」とか、注水量がいろいろ書いてあるけれども、1 月の終わりに「45 年 1 月低気圧」という台風並みの低気圧が本州を通過、そういう影響によるものを補正してみないと何とも言えない。現在のところ、まだそこまでの作業が進んでいないようなので、それについては、まだ発表の段階ではないようです。

それから、** (不明) ** は、まだちょっと整理が十分ではないので、ここに印刷してありません。ここまで約 4 km 離れた観測所で見ている限りでは、今のところまだ大した変化を申し上げることができないほどのものは出ていないと言ってよろしい、そういう気がします。

その次が水管傾斜計、長さ 40 m の東西、南北。これを見た限りでも、どうも注入の影響が ** (以下不明) 。これもデータが古く、2 月上旬分までしか、1 ヶ月ほど前までしか入っていないけれども、この範囲では出ていない。

これは、第 2 回の圧入が終わった頃までの分が入っているはずですが、少なくとも、そのところでは影響があったかなかったか、** (以下不明) 。その頃の様子でも現在でも、あまりはっきりとしたことは言えない状況です。

たいへん散漫ですが、以上のようなことでございます。